

職場における交通安全指導 Part.21

高速道路等の多発事故パターンとその防止策

前回から、「道路形状別にみた多発事故パターン」と、「それらの原因」を分析した交通安全指導を4回にわたり掲載しておりますが、第2回目となる今回は、「高速道路等の多発事故パターンとその防止策」を掲載いたしますので、社内の運転者教育にご活用ください。

高速道路といえば、繁雑な交差点もなく、急なカーブや坂道もない見通しの良い道路であることから、一般的にドライバーにとっては最も快適な道路といわれています。

しかし、平成 15 年度の共済契約車両による高速道路の発生事故件数を見てみると、対人共済で 57 件、対物・車両共済で 134 件も発生しており、それぞれ全事故件数の 8%程度を占める結果となっております。

<平成 15 年度 高速道路の事故発生状況>

	発生件数	全事故件数	割合
対人事故	57 件	723 件	7.9%
対物・車両事故	134 件	1,646 件	8.1%

1. 車線変更時の後続車との衝突事故

高速道路で意外と多いのが、追越し時あるいは車線を変更しようとして後方の十分な安全確認をしないまま、漫然とハンドル操作をしたために、後続車と衝突するケースです。

また、むやみな車線変更は周囲を事故に巻き込む非常に危険な行為であり、絶対に慎まなければなりません。

追越し時や車線変更時に際しては次の点に注意して指導してください。

(指導のポイント)

インターチェンジやサービスエリア等では、合流車があるので注意する。また、その付近の本線上での追越しはなるべく避ける。

追越し後、走行車線に戻るときは、急角度で入り込まないこと。特に雨天時、強風時など急角度の運転がスピンを起こす原因にもなる。

追越車線の連続走行は、他車に対し迷惑かつ危険である。(追越車線は追越すときの車線) 車線変更前に、必ず前後左右の周囲の走行車両の位置と速度の確認を、ルームミラー、サイドミラー、場合によっては顔を動かし、直接自分の目で確認する。もし、余裕を持ってできないと思ったら車線変更をしない。

方向指示器は余裕をもって早めに出し、後続車が確認できる時間を与え、ハンドル操作はゆっくりと行う。中にはなかなか譲ってくれない相手もあり、「相手が譲ってくれるだろう」という見込み運転は危険性が極めて高い。

車線変更を終えたら、速やかに方向指示器を元に戻し、前方の安全確認を行う。



2. 追突事故

「通常走行中の追突事故」

貨物自動車の特性として、乗用車に比べ、運転席が高いため車間距離を長く感じる傾向があり、このためにどうしても車間距離を詰めがちです。前車が渋滞等で減速したところへ追突するケースの多くは、車間距離の不足が原因としてあげられます。次に運転操作以外の行動、例えば、無線交信しながらの運転は、集中力を半減させるため、前車の減速に気付くのが遅れて追突事故になるケースもあります。

走行中の追突事故を防止するために次の点を指導してください。

(指導のポイント)

事前の車両点検は入念にチェックを行う。特にブレーキ系統やタイヤの空気圧や溝(最低でも16mm以上は必要)の欠陥は高速道路走行では重大事故の直接の原因となる場合があり、平素から周知徹底させる。

高速道路での、トラック等大型貨物自動車の絡んだ追突事故は、多重玉突きと複数の車両を巻き込むケースもあり、車間距離は前車が急停止しても、追突を回避できるだけの距離を保つ。(一般に時速をメートルに読み替えた以上の距離)

前車の動向はもちろんのこと、より高い安全を確保するためには2台前の走行車の動きにも注意する。

合流地点では割込車との追突も目立って発生しており、合流地点に近付いたら予め減速態勢をとる。

無線交信しながらの運転は、とっさの場合に大きな障害となり得るので、必要以外の無線交信は控える。また、交通情報を得るための手段としてカーラジオは便利であるが、バラエティ番組や娯楽番組に夢中になると注意力散漫になり、追突の要因にもなるので十分に気を付ける。

渋滞に遭遇したら、後続車からの追突を避けるための手段としてハザードランプを早めに点灯させる。

「渋滞中の追突事故」

高速道路が渋滞中のときに発生する追突事故も少なくありません。交通渋滞に巻き込まれると誰もがイライラしたり、同時に緊張感が低下して注意力がな

くなりがちです。このために次の点を指導してください。

(指導のポイント)

渋滞中に前車との車間距離が極端に短いと、相手運転者に不安を与えるだけでなく、万が一ブレーキペダルから足が離れると追突は避けられないので、渋滞中でも車間距離は多めにとる。となりの車両が動いたからといって、それにつられた見込み発進は絶対にしない。あくまでも自分の目で前車の発進を確認した上で発進する。自動二輪車は渋滞中でも割り込んでくる場合があるので、発進する前には必ずミラー等で周囲の安全をチェックする。



3. 料金所付近での接触事故

料金所の入口付近では、横から接近してきた車両の存在に気付くのが遅れ車両同士が接触する、というのが事故の多発パターンです。

この種の事故を防止するために次の点を指導してください。

(指導のポイント)

複数の料金所のある箇所では、誰もが少しでも空いている料金所に向かおうとする傾向があり、つい我先にと気持ちが焦り、他人より少しでも早く料金所を通過したくなるが、あくまでも自分の目指す料金所のエリアに入るまでは、周囲の安全確認を怠らず、いつでもブレーキペダルが踏める状態で進行する。

料金所を出ても気を抜くことなく、他の車両の動向(特に、急減速する場合がある)に気を配り、車間距離の保持に努める。